

## 町田市資源循環型施設整備に係るアンケート調査

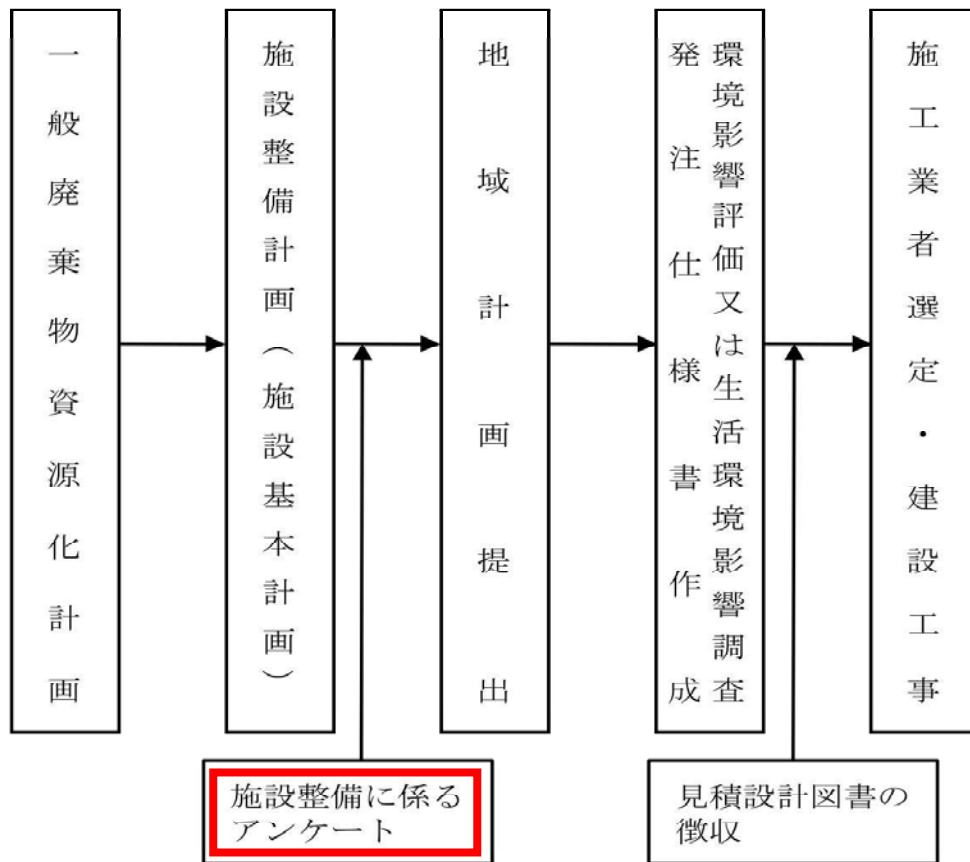
資源循環型施設の整備に向けたアンケート調査内容は、以下のとおりとします。

### 1. 調査の目的

ごみ処理施設の整備は、一般に性能発注方式(※)で行われています。

本調査は、性能発注方式において、施設の建設費や維持管理費等を事前に把握し、施設整備計画における検討資料とすることを目的とします。

※性能発注とは、メーカーが独自の技術や特許等を持っているため、発注者が詳細な使用を定めず、必要な性能項目（排ガス規制など）のみを定めて、発注する方式です。



性能発注における施設整備の流れ

## 2. 調査対象施設

燃やせるごみの処理については、資源化基本計画で示されている熱回収施設+ごみメタン化施設と施設整備部会の意見として熱回収施設単独と比較検討することが求められているので、①熱回収推進施設+ごみメタン化施設②熱回収施設単独の両方のアンケートを実施します。

調査対象施設は、以下のとおりとします。

①パターン	②パターン
熱回収推進施設（ガス化熔融方式・ストリーカ方式）	熱回収推進施設（ガス化熔融方式・ストリーカ方式）単独
ごみメタン化施設（湿式・乾式）	
粗大・不燃処理施設	
資源ごみ処理施設	

※①パターンの場合、燃やせるごみを機械選別する設備が必要となる。

## 3. 調査項目

調査項目及びその必要性等は、以下のとおりとします。

- ・ システムの概要・・・システム全体の特徴の把握
- ・ 独自の設備の説明・・・メーカー独自の設備を把握
- ・ 物質収支<sup>※1</sup>・・・排ガス量、温度、薬剤量等の比較検討
- ・ 機械選別について<sup>※2</sup>・・・実績、実証試験の内容、課題の把握
- ・ 建設費・・・全体事業費の比較検討
- ・ 維持管理費・・・全体事業費の比較検討  
(用役費、電気使用量、修繕費、運転人員)
- ・ 発電量等・・・計画ごみ質における発電量等の比較検討
- ・ 建築面積等・・・施設立地に必要な建築面積等の把握及び検討
- ・ 施設実績・・・同様な施設建設実績の把握
- ・ 環境負荷の削減・・・環境負荷の更なる削減の可能性の比較検討
- ・ リスク管理・・・施設安定稼動のためのリスク及び対策を把握

※1 物質収支・・・ごみが搬入されて処理され、搬出（処分）されるまでの流れでの物質出入り量を過程毎に把握する。

※2 機械選別・・・ごみメタン化施設で現在の収集方法のまま、生ごみ等を発酵槽に搬入するための異物除去装置

## 4. 調査対象企業

調査対象は、町田市が計画している熱回収施設、ごみメタン化施設、粗大・不燃処理施設、資源ごみ処理施設について、建設実績がある企業とします。

区分	熱回収施設		ごみメタン化施設	
	ストーカ炉	ガス化溶融方式	湿式	乾式
概略構造図(例)	<p>ごみホツバ</p> <p>① 前燃ストーカ</p> <p>② 燃燃ストーカ</p> <p>③ 後燃ストーカ</p> <p>排ガス</p> <p>ばいじん</p> <p>鉄</p> <p>アルミ</p> <p>ガレキ</p> <p>燃燃灰</p>	<p>ごみホツバ</p> <p>① ガス化炉</p> <p>② 鉄</p> <p>アルミ</p> <p>ガレキ</p> <p>③ 溶融炉</p> <p>スラグ</p> <p>④ 排ガス処理設備</p> <p>排ガス</p> <p>(固化) 飛灰物</p>	<p>ごみホツバ</p> <p>① 受入・前処理</p> <p>発酵不適物</p> <p>② メタン発酵設備</p> <p>発酵残渣</p> <p>③ バイオガス貯留</p> <p>ガス利用</p>	<p>バイオガス</p> <p>排ガス</p> <p>メタン</p> <p>発酵残渣</p> <p>ガス利用</p>
	処理システム概要	<p>乾燥・燃焼・後燃焼と、それぞれ段階になった火格子の上をごみが移動し、燃焼が進むことで最終的に焼却灰となる。</p>	<p>流動焼却部と灰溶融部を結合したものと。ごみを蒸し焼きにし、スラグ状態で回収し、1,000℃を超える高温でごみを溶融する。</p>	<p>前処理でごみを破碎選別・加水し、発酵槽で発酵させる。発酵は、嫌気性消化で、バイオマスが酸素のない条件で雑多な微生物の活動により分解し、最終的にメタンガスと二酸化炭素を生成する。</p>